

	部(支所)長	課長	担当
回 覧			

水稻本田防除剤

近年梅雨の様相も様変わりし、「ゲリラ豪雨」などと呼ばれるような豪雨が多く、土砂災害などが全国各地で多くの被害をもたらし、今後の農作物管理にも影響が心配されるところです。さて、今回は、本田防除病害虫についてお知らせいたします。近年飛来の時期や数に変化してきている海外飛来性害虫は今後本田防除が必要となってきます。昨年本県でも大きな被害をもたらした飛来性害虫ですので、今年も注意が必要です！！

1. 水稻栽培飛来性害虫の発生状況

昨年、九州・西日本に大きな被害をもたらしたトビイロウンカなどの飛来性害虫が今年は梅雨が1か月早く来たように1か月早くから確認され、特にトビイロウンカは、本県でも早期水稻にて注意報が既に発表されています(7月1日付)。本年の普通期の飛来状況は、まだ発表されていません(7月7日現在)が新規有効成分ピラキサルトを含む箱施用薬剤を使用している圃場でも、油断はできません。他の病害虫防除を含めて本田防除薬剤による基幹防除は必須で、圃場によってはトレボン粉剤などの臨機防除を実施しましょう。

2. 令和3年産水稻生産におけるトビイロウンカ対策について

水稻病害虫防除対策全国協議会にて、昨年の状況、結果をふまえ水稻の生産に被害を生ずる病害虫の防除の徹底を図るため、効果的な対策を議論しトビイロウンカの防除対策についてまとめられていましたので内容を一部抜粋して紹介します。

①発生予察情報等をふまえた防除の実施

都道府県では、臨機防除の実施が難しいと考えられる地域においては、箱施用剤の使用と出穂前の粒剤散布を基本とした、予防に重点を置いた防除体系を策定し、その普及を図る。

②防除体系

箱施用剤の種類によって、防除効果に大きな違いが出たことや、本田防除(追加防除)では、株元まで薬剤が届く散布とならず、被害を回避できなかったことにおいては、対策として効果の高い箱施用剤の使用と本田散布を基本とした防除を指導する。



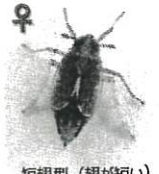







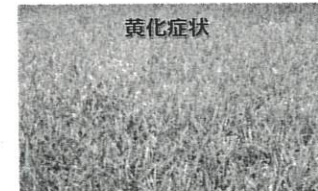

トビイロウンカの場合は生息する株元まで薬剤が十分に届かない場合があるので、株元への薬剤散布が困難な場合には、出穂前の粒剤散布を指導する。

私たちJAグループは“無登録農薬”は扱いません！

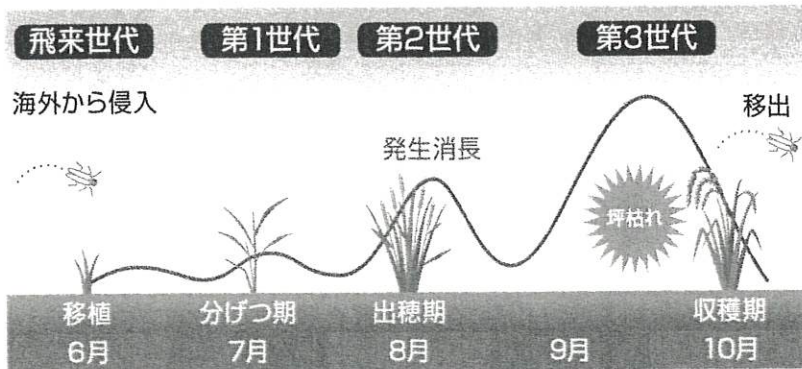
3. 飛来性害虫について

ウンカ類やコブノメイガは、自身では長距離を飛行してくることはできませんが、梅雨時に東シナ海で発生する南西風（下層ジェット気流）に運ばれて、およそ1日～1日半をかけて中国大陸から九州に到達します。昨年は、梅雨明けが遅く、梅雨前線がかかり続けたこともあり、断続的に多くの飛来が確認されています。飛来したウンカ類は、圃場内で世代を繰り返して被害をもたらします。ウンカ類は主に株元を好んで生息する。水稻の生育が進んでくると、株元まで薬剤がかかりにくくなる為、注意が必要。

各ウンカ類の特徴

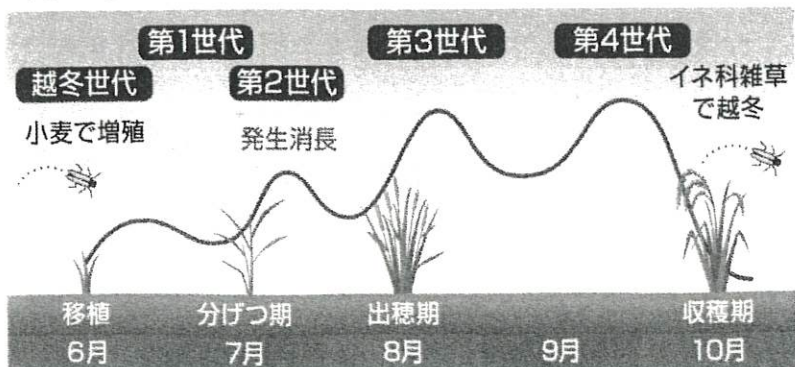
	トビロウカ	セジロウカ	ヒメトビウカ			
特徴	大陸から飛来・国内で越冬不可 アトマイヤ-感受性低下	大陸から飛来・国内で越冬不可 アトマイヤ-感受性低下	大陸から飛来・国内で越冬不可 アトマイヤ-アトリス感受性低下			
雌 (♀)	 短翅型 (翅が短い)	 長翅型：約 4.8 mm (翅が長い)	 短翅型 (翅が短い)	 長翅型：約 4.5 mm (背面が白い・翅が長い)	 短翅型 (翅が短い)	 長翅型：約 4.0 mm (背面が白い・翅が長い)
雄 (♂)						
主な被害	 坪枯れ被害		 黄化症状	 イネ縞葉枯病を媒介		

<トビロウカ・セジロウカ>



- ・6月～7月の梅雨時期に下層ジェット気流に乗って中国から飛来する
- ・飛来後、3世代かけて増殖し続け、栽培後半に「坪枯れ」被害を引き起こす。

<ヒメトビウカ>

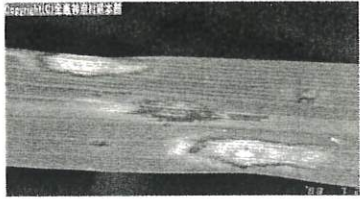



- ・小麦でも大発生するように、イネ以外にも寄生でき、国内でも越冬できる。
- ・イネ縞葉枯病、イネ黒すじ萎縮病の媒介虫。
- ・越冬世代が小麦やイネ科雑草で増殖し、水田で増殖する。

4. 本田病害について

【いもち病】 いもち病は、水稻栽培において最も大きな被害を発生させる病害。


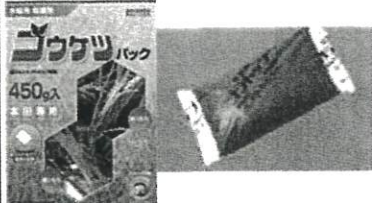

糸状菌（かび）が引き起こす病害で、25℃～28℃の温度と高湿度を好み、感染には水滴が必要で、しとしと雨など稲体に水滴が付着することで発生する。病斑ができてからも、大量の胞子を飛散させるには90%以上の高湿度が必要である為、蒸した気候が続くときに蔓延する。

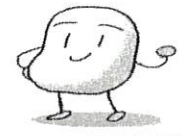
種類	病徴	写真
葉いもち	病斑に葉がやられて生育が抑制され、ひどい場合は新しい葉も出すくみ状態となり、いわゆる“すりこみ”状態となる。この状態になると、もはや収穫も望めなくなる。	
穂いもち	穂首や籾に病斑ができるが、穂首に病斑ができると、首から先の穂に栄養が届かなくなり、白穂になり、籾に病斑ができると稔実不良となったり、着色米の原因ともなるので、収量や品質の低下に最も影響がある。	

【紋枯病】 稲の水際の茎葉部に、雲形で中央が灰白色の病斑をつくり、だんだんと上位に病斑が伸びていき、止葉まで達することがあり、減収の被害につながる。また、念実が悪くなったり、茎葉が病斑によって弱まって倒伏しやすくなるので、コシヒカリなど背の高い品種は要注意。株間の湿度が高いと発病が多くなるので、茎数が多い品種はもちろん、窒素過多による過繁茂などは発病が多くなる要因となるので注意。



5. 本田防除薬剤（省力型）の紹介

製剤名	豆つぶ剤	パック製剤	なげこみ剤
主な商品名 (例)	スタークル豆つぶ(ウンカ類、カメムシ類) ワイドパンチ豆つぶ(いもち病、ウンカ類) オリブライト250G(いもち病、紋枯病)	コラトップジャンPOP(いもち病) ゴウケツパック(いもち病、もみ枯細菌病) フジワンパック(いもち病、稲こらじ病)	なげこみトレボン (ウンカ類、イネミスノウムシ等)
特徴	優れた自己拡散性粒剤で、多彩な散布方法で使用が可能。大粒で軽量の豆つぶ形状。	水溶性フィルムパック入りの拡散性粒剤で、投げ入れるだけで広がっていく。	水溶性容器(100ml)入り油剤で散布後広がった油膜が表面張力や毛細管現象等で稲体に付着する
施用量 (10a)	250g	10パック	6～10個
画像			
散布方法	水深3～5cm程度を確保し、畦からそのまま散布、ひしゃく等を使用して散布。またドロー等での散布も可。散布後は4～5日程度は湛水状態を保つ。	水深3～5cm程度を確保した本田に水溶性パックのまま、投げ入れる。散布後は4～5日間は湛水状態を保つ。7日間は落水・かけ流しをしない。	水深5cm程度を確保した本田に水溶性容器のまま投げ入れる。濡れた手で触れないようにする。



豆つぶ剤でらくらく防除!

4

1 重い物を担ぐのがつらい
2 圃場が広いので、長距離を歩くのが面倒
3 均一にまくのが苦手

こんなことでお困りの方におすすめです!

ほく とうとういっしょに散布するの?

1

お父さんがぎっくり腰で動けないから、本田防除は私がやらなきゃ...

虫が出てきているから早めに済ませたいけど今日は暑いし、動噴担いで作業するのは大変だあ...

5

散布はあせからこんな感じで行います!

手まき
袋のまき 散布
てしやく 散布

こりや便利だわ! 使ってみよう!

背負式動力散布機やRCヘリでの散布もOK!

2

お疲れさまです!

あ! JAさん、らくに本田防除ができる方法はないかねえ?

それなら豆つぶ剤がおすすめです!

6

豆つぶ剤の効果がきちんと現れるよう、漏水田、掛け流し田では使用しないよう、ご注意ください!

田面の凸凹にもご注意ください!

3

豆つぶ剤ってなあに?

こんな新しい剤型です!

従来品の1/4の軽さ

水面でくまなく回って自己拡散!

風による影響が少ない大粒タイプ

溶けた有効成分が浮きながら膜状に広がります

※注: 1キロ剤との比較

引用: 発生予察情報 (長崎県病害虫発生予察室)、水稻病害虫防除対策全国協議会、省力散布剤 (クミアイ化学等農薬メーカーHP)、なげこみトボ商品カタログ (三井化学)、ワカ類の世代図 (クミアイ化学)

*8月号に記載されている内容はJA全農ながさきのホームページに掲載されています。
JA全農ながさきホームページ URL: <http://www.ns.zennoh.or.jp>

JAグループ「安全防除運動」展開中

- ◎農産物の安全……今、消費者がもっとも願っている「食の安全」。それは私たち生産者の願いでもあります。きちんとした農薬を選び、正しく使って、日誌に記録を残す。これを続けることが、消費者に信頼される農産物づくりにつながります。
 - ・使うのは、もちろん登録農薬!
 - ・安全使用・事故防止へ、ラベル確認を習慣に!
 - ・使用後も、防除日誌で“安全証明”
- ◎環境の安全……土や水といった自然の恵みを利用して営まれている農業。皆さんが守り続けてきた大切な田畑を、次の世代に残すためにも、自然環境に十分配慮した農薬散布を心がけましょう。
 - ・必要量だけ希釈し、使い切る。空容器は適正処理を!
 - ・水稻除草剤の散布後は、圃場外への流出防止策を!
- ◎農家の安全……軽装備による散布中の事故や子供の誤飲事故が増えています。いくら周辺環境に配慮しても自身の健康を害しては何にもなりませんし、周辺住民との信頼関係を築くためにも農薬の保管管理にはいっそう注意したいものです。
 - ・暑さに負けるな。完全防備!
 - ・使用後は“薬の戸締り”万全に!

散布するときは、マスク、メガネ、手袋をきちんと、つけましょう。



安全使用基準を守りましょう